

日本食品衛生学会 ブロックイベント 第4回東海・北陸公開講演会

主催：公益社団法人日本食品衛生学会 東海・北陸ブロック

開催日時：3月10日（火）13:30-17:00

開催場所：岐阜大学サテライトキャンパス 4階多目的講義室

講演会テーマ：自然毒—食中毒から医薬品への応用まで

プログラム：

13:30-13:35 開会挨拶

名古屋市衛生研究所 生活環境部 部長 大野浩之
(日本食品衛生学会東海・北陸ブロック理事)

13:35-14:30 基調講演 国内における有毒植物による食中毒について

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部第3室 室長 登田美桜

14:30-14:45 休憩

14:45-16:00 特別講演 薬学から自然毒を見る

岐阜薬科大学 薬用資源学研究室 教授 田中稔幸

16:00-16:05 閉会挨拶

中部大学 応用生物学部応用生物化学科 教授 堤内 要
(日本食品衛生学会東海・北陸ブロック長)

16:05-17:00 交流会

参加費：無料（会員・非会員を問いません）

申込方法：下記 E-mail 宛先に参加者の所属と名前を記入してご連絡ください。

(アクセス) 岐阜大学サテライトキャンパス

〒500-8844 岐阜県岐阜市吉野町 6-31

岐阜スカイウイング 37 東棟 4階

JR 岐阜駅から徒歩 5分, 名鉄岐阜駅から徒歩 8分

(お問い合わせ先)

岐阜県保健環境研究所 食品安全検査センター

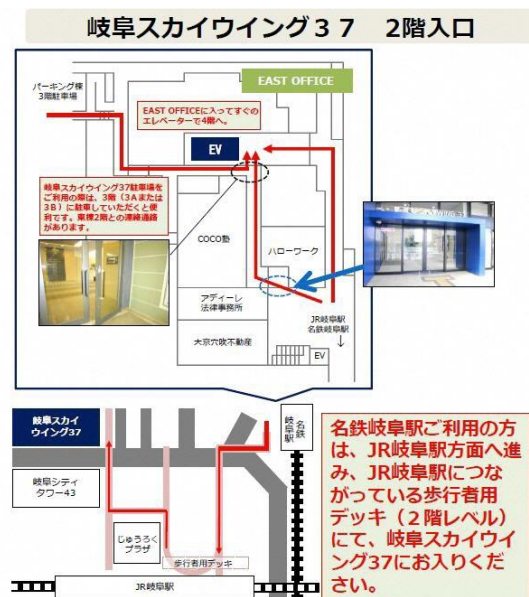
南谷臣昭 (みなたに とみあき)

〒504-0838 岐阜県各務原市那加不動丘 1-1

TEL : 058-380-2100

FAX : 058-371-5016

E-mail : minatan-t@outlook.com



基調講演

国内における有毒植物による食中毒について

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部第3室 室長 登田美桜

食中毒の原因となる自然毒は、動物性自然毒（フグ毒や貝毒など）と植物性自然毒（有毒キノコや有毒植物）に分類される。植物性自然毒である有毒植物による食中毒が国内で毎年報告されており、原因となった有毒植物の種類は多岐にわたる。それらの食中毒の多くは食用にできる植物と見た目がよく似ている有毒植物を誤認して採取・喫食したことにより発生し、特に新芽や若葉のときは区別が難しいため食中毒の発生件数も山菜採りシーズンに多くなる。最近では野生の有毒植物だけでなく、身近に栽培されている園芸植物を誤って食べて食中毒になった事例も多く報告されるようになった。今回は、国内における有毒植物による食中毒について、原因となりやすい植物の種類や特徴、そして事例の傾向についてご紹介する。

特別講演

薬学から自然毒を見る

岐阜薬科大学薬用資源学研究室 教授 田中稔幸

自然毒とは食品衛生学的に食中毒に主眼がおかれている説明がなされていることが多い。毒というとなんとなく体に悪いものというイメージがあるが、定義上は「少量で不都合な生物活性を示すもの」であり、食塩のように生命維持に必須であっても量によってリスクが変化し、「毒性」を発現するものは一般に毒としては考えない。また、ヒト中心に考えがちであるが、ここでは自然毒を「生物が生産、保有する生理活性物質で、他の生物に対してのみ有害作用を示すもの」と考えることにする。我々の先祖は経験を通して、自然毒を含む植物を毒抜き（アク抜き）を施して多くの「有毒植物」を「有用なデンプン源」としてきた。また巧妙な減毒操作により「薬」としているものが多くある。さらに現代薬学では毒成分の構造を改変することにより毒を薬にしてきた歴史もある。今回は食中毒に限らず、薬学の立場から自然毒について概観し、特に猛毒から新薬に生まれ変わりつつある最近の事例について紹介したい。